The METRO REPORT
メトロ・ワールド・チャイルド
ニュースレター
2024 年 6 月号
NEW YORK・INDIA・KENYA・PHILIPPINES・ROMANIA・SOUTH AFRICA・PERU・COLOMBIA・HAITI
メトロ･ワールド･チャイルド・ジャパン　東京都中央区銀座5-14-6 橋ビルⅡ7F　TFC 内

アメリカブックバッグ支援開始！

アメリカの新年度開始に向けて、学用品支援を開始します。

ニューヨークのスラム街に住む子どもたちにとって、学校に行き続けて、きちんと卒業して、普通の仕事に就くことは、私たちが考えるほど簡単ではありません。

子どもたちが住んでいる地域には、悪い道への誘惑が数多く存在して、道を反れて学校をやめるのは簡単なことです。近所には、手軽な小銭稼ぎの方法や、子どもたちにふさわしくない悪い考えを吹き込む人々がたくさんいるのです。

そのような環境の中で、子どもが自分の力で誘惑に打ち勝つことは大変な試練です。ぜひ、子どもたちがメトロの教会学校に通い続け、良い影響を受けて卒業するまで学校での学びを続けられるよう、背後でのお祈りをお願いします。

そして、新年度に、新しくてきれいなカバンと、新品の学用品があれば、子どもたちは学校の始まりが待ち遠しくなるでしょう。ぜひ、ブックバッグのご支援によって、学習意欲を高め、子どもたちの背中を押してあげてください。

同封の申込用紙をご確認の上お申し込みください。

ＱＲコードでのお申込はこちらから⇒

サイトからは、https://metroworldchild.jp/bookbag/

1 件 6,400 円

締切は、７月７日(日)

常時スポンサー募集中！

お申し込みはこちらから⇒

https://metroworldchild.jp/apply-for-sponsor/

今月の引き落とし日！

６月２７日(木)です。口座をご確認ください！

今月号の目次

P２…フィリピンツアーレポート
P3～４…ビル師からのメッセージ
P5…ビル師セミナー日程のご連絡
P6…日本事務から大切なお知らせ

【＊お願い】子どもの誕生日その他のご連絡、子どもからの手紙も同封しますので、必ず開封してご確認ください。

フィリピン視察ツアーのご感想

今年の春開催しましたメトロ･フィリピンの現地視察ツアーにご参加くださった方々のご感想をお届けします。

堀井 ユリ 様（先月からの続き）

墓地に住む人々

午後は、お墓に住んでいる子ども達のサンデースクールを見学。想像していたところとは全く違う大規模な墓地で、約5,000人が住んでいると聞いてびっくりしました。どんな風に住んでいるのか？ フィリピンでは火葬せずに棺桶に入れて埋葬するのですが、その棺桶が納められている場所（屋根がついている部屋の中にある）が寝床になっていて、お墓参りに家族が来る時は移動する、という生活なのだそう。スモーキーマウンテン同様、とても不衛生なところでした。

サンデースクールを見学

サンデースクールが始まると子ども達は生き生き！ 100人以上集まっていました。みんなかわいくて純粋で天真爛漫で…メトロのサンデースクールは最初子ども達を楽しませて盛り上げる、でもルールもしっかり決まっている、笛が鳴ると静かにする､ちゃんとした態度でいるとお菓子がもらえる、など、様々な工夫が凝らされていて、メリハリのある、子ども達を決して飽きさせない、楽しい、また、核心部分である神様の愛､福音がしっかりと語られているプログラムでした。子ども達が心から神様を賛美している姿に心打たれました。また、サンデースクールで育ったティーンエージャーや大人が、素晴らしい働き人になっている姿も感動でした。最後に日本から持参したお菓子を配りましたが、喜んで受け取ってくれました。

３日目、午前、午後と、スモーキーマウンテンで行われている２か所のサンデースクールに参加しました。この日は地元のサポート教会の方が仕出しをしてくださっていて、子ども達、家から器を持っての参加です。

サンデースクールの合間に、台湾人の女性スタッフが、スモーキーマウンテンを案内してくださいました。立ち退きがあってからも住んでいる人がいる、と聞いていましたが、数十人と思いきや、たくさんの人が住んでいてコミュニティができていました。スラムはどこも子ども達、赤ちゃんがいっぱい、そしてみんな人懐っこくて可愛い！

スモーキーマウンテン、ゴミで固められた山…

頂上から眺める景色、ここから外の世界はどうなっているの？と眺めることができるだけで、ここから抜け出せない子ども達、ほとんどの子どもに戸籍がないそうです。でも、なんだか幸せそうです。大人はのんびり、子ども達は友達、家族と一緒にイキイキと過ごしているように見えました。でも夜は電気もなく真っ暗、大雨が降ると洪水になってしまうそうです。

午後のサンデースクールにポーリーンちゃんが来てくれて再会できたことも、とても嬉しい出来事でした。駆け寄ってギュッとハグしてくれて…また、ワーカーとして働いている姿を見て、涙が出るほどの喜びでした。

今回スラムに行って感じたこと…

子どもがある程度ちゃんとした服を着ていて（よく見るとボロボロであったり汚れたりはしていますが）髪型もボサボサでなくちゃんとしていること、栄養状態も見た感じとても元気そうなこと。親の愛情を受けていること。

貧しいのになぜ？その日暮らしの家庭が多く、衣食が第一で、住む家や環境は二の次三の次なのかな、と感じました。でも、子ども達は幼いなりに自分の貧しさのことも知っていて、３歳くらいの男の子がお金ちょうだい、とジェスチャーで訴えてきたりしていました。聖書の福音、希望、そして教育が必要だとあらためて思いました。

メトロの支援は本当に貴重で、１人の子ども、またその家族の人生を変えることができる、素晴らしい働きであることを再発見できる旅でした。

万代先生､ご一緒させていただいた楽しい参加者の皆さん、メトロのスタッフ、ボランティアの皆さん、日本語通訳をしてくれたハンナさん、日本メトロスタッフの三木さん、また背後でお祈りしてくださった皆さま、旅を豊かに祝福してくださった神様に、心から感謝します！

ビル師からのメッセージ

先月のレポートのイースターの日曜日の記事を、お読みいただいたでしょうか。奇跡を信じる方もいれば、信じない方もいるでしょう。その日曜日に起きた一連の奇跡を、本当の意味で理解できる方もいらっしゃると思います。

年齢を重ねていても、また若くても、神様はあなたに道を開かれます。皆さんは目的をもって、目的のために造られているのです。ここでは、ごく普通の人々が神様の助けによって特別なことを成し遂げ、不可能と思われるような方法で用いられる様子を見ることができます。

献身の思いが感情より強ければ、例え5時になろうとやめない

4人のボランティアが、ガザ地区でのイースターの日曜日の活動を一日中手伝ってくれました。日曜学校の後、ハン兄と彼らは、戦争で来られなくなるまで難民キャンプの日曜学校に通っていた子どもたち何人かを訪ねようと決めました。

メトロの日曜学校は、そこで10 年近く開催されてきました。ハン兄は、通ってくる子どもたちが、1,000 人になっても、まだ顔を見たいと願いながら会えなくなった子どもたちがたくさんいると感じていました。

彼もチーム全員も、その日、日曜学校が終わった後に何が待ち受けているのかは知りませんでした。

日曜学校に来ていた人たちが各々家路につき、ハン兄は後片付けをしていました。もう夕方5時を数分過ぎていました。素晴らしく、また神様の力に満ちた一日でした。

その日の朝、ハン兄は数斤のパンと大きなペットボトルの水を国境を越えて持ってくることができました。彼らはそのパンと水を頑丈なキャンバス地の袋に入れ、こう言ったのです。「まだ一日は終わってない。まだイースターだ。」そして、一軒一軒訪ね始めたのです。

彼らは、以前出会った多くの子どもたちがどこに住んでいたか思い出そうとしていました。5人で一緒に歩いていても危険な場所です。すぐにハン兄が最も恐れていたことが現実のものになりそうだと気づきました。数週間前に道端で猫の死骸を食べていた3人の少女が見当たりません。…どこへ行ったのでしょうか？ 誰もそのことについて口を開くことができませんでした…

ハン兄とボランティアの4人は歩き続けました。出会う人々と話をし、以前から知っている子どもたちを探しました… 。2時間近く歩き回った後、彼らは飢餓の危機に瀕している全部で 11 人の小さな子どもたちを見つけました。そしてその子どもたちにパンと水を与え、文字通り奇跡的に彼らの命を救うことができたのです。

考えてみてください。本当にもう何も残っていません。食べ物などありません。親たちにできることも何もありません。死んだ幼い息子を日曜学校に運んできた母親のように、この子どもたちもまた、人生の旅の終わりにいたのです。

ハン兄は良いカメラの付いた携帯電話を持っていませんし、停電しているいることが多いため、十分な充電もできません。また、公共の場で写真を撮るのも安全ではありませんので、これは珍しい写真の 1 つです。

日曜学校に来ている子どものひとりが、ハン兄が差し入れた水を持っている写真です。

ハン兄と4人のボランティアは、「今日はもう充分働いたし、素晴らしい奇跡も見ることができた」と言うこともできたでしょう。しかし、午後5時になっても働きをやめない人もいるのです。疲れていても、この辺でやめた方がいいかもしれないと感じても、彼らは「まだニーズがある、まだやるべきことがある」と言うのです。もしかしたら、まだもう少し奇跡が起こるかもしれないのです。

彼らが、残ったパンと水を配っている間、このパンと水がなかったら自分の子どもが死んでいただろうと考えて、子どもの母親たちは抑えきれず泣いていました。

いったい日曜学校で死からよみがえった少年か、それとも命を救うに十分な食料を得られた 11 人の子どもたちか、どちらがより奇跡的なのだろうかと彼らは考えさせられました。

何年にもわたって働きを続けてきた私は、起きてほしいと信じてきた奇跡を、神様が今起こそうという直前で、多くの人々がやめていくのを見てきました。彼らは、総じてこう言います。「もういいよ。信じるのはもうやめよう。どうせ神様は何もしないのだから。」

しかしもし、ほんの少し長くその信仰の戦いにとどまっていたら、午後 5 時過ぎまで残っていたら、自分の身に起こった、自分たちにしか経験できない奇跡を目の当たりにしていたでしょう。

あなたが望むものを信じればよいと思います。もしかするとあなたは、聖書の奇跡のいくつかは人々が作り上げた物語にすぎないと思っているかもしれません。メトロのチームは、生死の危機に瀕している子どもたちに与えるパンを届けるために、キャンバス地の袋に手を入れ続けました。そして確かに必要なパンは与えられ、小さな紙コップに水は注がれ続けました。

私が何を言っているかわかりますか？ お分かりの方もいらっしゃいますね。

というわけで、それはそれは色々なことの起きたイースターの日曜日でした。チームメンバーも、それぞれの被害を受けた自分たちの家に戻り始め、ハン兄も、いま住んでいるヨルダン川西岸地区の国境に向かっていた頃、私はあることに気づきました。あらためて様々な形で実現したこの奇跡を、私たち全員が、そして皆さん全員が助け、祈り、信じてきたのだと。本当に奇跡の日曜日でした。

多くの皆さんはお分かりになったと信じます。もしそう信じていなかったら、このような奇跡の数々を皆さんにお伝えすることはなかったでしょう。皆さんのうち何人かは、「主よ、私をお遣わしください」と言う一人になり得るし、実際にそう言う人がいるかもしれないと信じています。

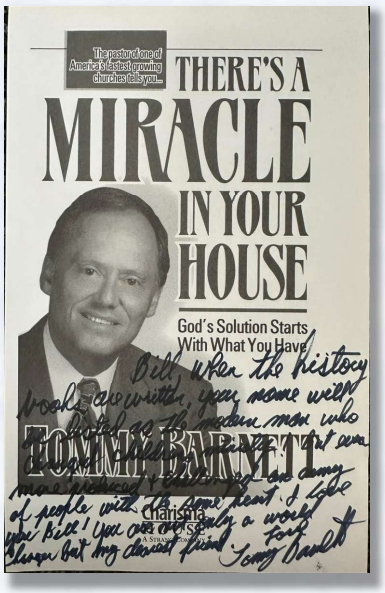
来る新しい週に何が待ち受けているのかはわかりません。私は、有酸素リハビリテーションの最中です。これからも戦い続けられるよう、精一杯頑張ります。

奇跡は人を通して起こる

ガザでのことのあと、別の電話がありました。ネパールのカトマンズから5時間ほど南下した所で、私たちのスタッフの一人とボランティア3人が、日曜学校をしていたという理由で逮捕されてしまったのです。あのガザのイースターで起こった素晴らしい奇跡の絶頂から、今度はネパールでメトロのチームメンバー4人がそれぞれに1,200ドルの罰金が科され、2年の刑に服するかもしれない状況へと陥ったのです。

メトロの日曜学校のＴシャツを着たチームメンバーが手錠をかけられて立つ姿に、私は居たたまれませんでした。今、裁判の日を待っています。私たちは、また奇跡が起きると信じるしかありません。

一方、先ほどまで私は、ウガンダでの今後の働きの打ち合わせのため、ニューヨークに来ていたメンバーとテーブルを囲んでいました。ウガンダは小さな群れからスタートし、今では毎週4万人もの子どもたちが集う日曜学校に成長しています。神様は奇跡を起こすために人を通して、また人の中で働かれます。



バーネット牧師がビル牧師のために本の表紙に書いた言葉―
ビルへ、
歴史書が書かれる時、君の名前は、子どもたちへのミニストリーを変えた現代人として記されるだろう！
しかしそれ以上に、同じ志を持った戦士の軍隊を作り、育て上げた。私にとって君は、大切な友だ。君は世界を変える人間であるというだけでなく、私にとって最も大切な友人だよ,
心を込めて
トミー・バーネット

今日、ふと親友のトミー・バーネット牧師から送られた本をまた手に取りました。ほとんどの方は、私がニューヨークに来る前の数年間、アイオワ州のダベンポートで彼と一緒に働いていたことをご存知だと思います。

私たちの関係は、年を重ねるごとに絆が深まり強くなっています。彼の友情、知恵、やる気、粘り強さ、一貫性、リーダーシップ、そして見識が、この数年間、私の人生において、いかに偉大な模範のひとつであったかは説明しきれません。

ここまで、ガザでの復活祭で起きた奇跡について、そして吹き飛ばされた建物とその地域を神の家に変えようと、チーム一丸となって働いてきたこと、それが実現したことについてお伝えしてきました。バーネット牧師の本を開く時、彼のメッセージと「奇跡は神の家にあり」という真理が、彼がその本を書いた日と同じように今日も真実なのだと、あらためて確信するのです。

あなたが奇跡を信じ、信仰に立ち、神様の言葉を一言一句信じる人間になるために、あなたを助け、励まし、力強く挑戦してくれる、私にとってのバーネット牧師のような良き友が、あなた方の人生に与えられる機会があることを願います。

そしてついには、あなたの教会で、あなたの家で、あなたのコミュニティで、そして例えどこであれ、あなたの居る世界で、あなた自身が、神様が用い、神様が望まれる奇跡となるのです。

私たちは、ニューヨークという地で何年も戦い続け、何度も何度も奇跡を目の当たりにしてきました。私は皆さんに強くあれと言いたいのです。覚えておいてください。私たちは**戦いに必要な強さを前もって得ることはできません。戦う強さは戦いから学ぶ**のです。そういうことになっているのです！

ガザで、ネパールで、そして次の状況やニーズが何かは、誰にもわかりませんが、志を同じくする人々と共に、私たちは人生の戦いから得た強さをもって目の前の戦いに挑み、その私たち自身もまた、神の家の奇跡になれると信じるのです。

ダビデは熊と、そしてライオンと戦いました。しかし、これは準備だったのです。その後、彼の行く手には巨人が現れました。しかし思い出してください。その巨人が大きければ大きいほど、奇跡も、それに応じて大きくなるのです！

これらの記事が皆さんの次の戦いに、例えそれがどんなものであっても、その戦いに備える助けになると信じています。それはもちろん、神の家にはまだ奇跡があると信じているからです。

ビル・ウィルソン

メトロへのご支援は、以下からお申し込みいただけます。

https://metroworldchild.jp/offering/

お申し込み時に、献金の目的をご記入ください。

スポンサーの方は、口座引き落としも可能です。電話やメール、FAX でも受け付けています。

ビル・ウィルソン師セミナー！開催予定

ビル・ウィルソン師のセミナーをようやく開催できることになりました。５年ぶりの開催です！

ビル先生は、ある程度体力が回復した時点で、世界各地での講演活動と視察や打ち合わせのための出張を始めなければなりませんので、日々リハビリに励んでいます。

長年にわたり忠実にご支援くださる日本のスポンサーの皆様にも、ぜひビル先生から直接お礼とご報告を申し上げたいということで、日本でのツアーを楽しみにしています。日本では、年に１度ほどのペースでしか開催できませんので、すべてのご予定を調整してこのセミナーにご参加ください。

また、ウクライナやガザなどの状況を現地で直接体験し、今も現地にいるスタッフから状況報告を入手していますので、現状をお伝えできます。

さらに、ケニアでの豪雨によるダムの決壊は、メトロが活動しているまさにその地域、ナクルで発生しました。現地スタッフが今なお毎日救出活動を続けています。関わっていた子どもや家族が亡くなったり行方不明になったり、辛い日々が続いています。しかし、現地スタッフは精力的に行方不明者の捜索と被災者への支援活動を行っています。ケニアでは、学校も閉鎖され、メトロの日曜学校の活動は休止状態になっている様子です。

この災害がなくても十分貧しい人々です。豪雨の前にはひどい干ばつが続き、人々の生活は非常に厳しい状態にありました。一つの土間しかない泥作りの家に住んでいるような人々は、すべてを失い、以前にも増して厳しい状況の中で生きることを余儀なくされています。どうか、１日も早く行方不明者が見つかり、復興が順調に進みますように、スタッフの健康が守られて救援活動を続けられますように、必要な支援が必要な人々の手に渡るようにお祈りください。

しかし、様々な障害の中にあっても、メトロの働きは世界中でますます拡大しています。セミナーの中では、素晴らしい証しも含め、メトロの現在の活動状況をビル先生が直接熱く語ります。どうぞ一人でも多くのお知り合いを連れてセミナーにご参加ください。

沖縄セミナー

７月２５日(木) PM7:30
ジョイチャペル
所在地：沖縄県うるま市兼箇段 1562-1

関東セミナー

７月２７日(土)午後
本郷台キリスト教会・ダイヤモンドチャペル
横浜市栄区野七里 1-37-10

７月２８日(日)午前
本郷台キリスト教会・ダイヤモンドチャペル
横浜市栄区野七里 1-37-10

７月２８日(日)午後　時間未定
場所：未定
所在地：東京都内予定

関西セミナー

７月３０日(火) PM2:00, PM7:00
主イエスキリスト教会
所在地：大阪府大阪市西成区岸里東 2-10-2

上記の予定は、今後のビル・ウィルソン師の体調やその他の状況で変更の可能性があります。次回、７月号のレポートや HP などでのご確認をお願いいたします。

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

注意! 偽サイトにご注意を！

ビル師の偽のＳＮＳがたくさん発生しています。騙されて献金を送金されないように、くれぐれもご注意ください。

ビル先生の Facebook は以下の一つだけです。
https://www.facebook.com/PastorBillWilson

ビル先生が、直接献金を依頼することはありません。メッセンジャーやその他の方法で、個人的に連絡することや友達申請することもありません。友達リクエストを受け取った場合は、その偽アカウントを Facebook に報告し、ブロックしてください。

メトロの働きやビル先生へのご支援は、必ず日本事務所を通してお送りください。

違いを生み出す月曜日！

メトロの働きは各国で急激に拡大し、サポートの必要な子どもの数は、飛躍的に増えています。**新規スポンサーを常時募集**していますので、よろしくお願いいたします。コロナや戦争で、貧困地域の状況は悪化し続けており、ケニアでは、以前から食事をまともに食べることができない子どもがたくさんいましたが、今はさらに深刻な状況です。現地を訪問した若いスタッフは、その悲惨さを目撃して、「違いを生み出す月曜日」のキャンペーンを発案。一人でも多くの子どもにスポンサーを見つけようと努力しています。どうぞ、身近な方々にメトロをご紹介ください。

メトロ紹介＆申込サイト⇒
https://metroworldchild.jp/metrogenerallp/

現在開催中のキャンペーン！

年間を通して様々な企画を行いますので、毎月のレポートを必ずご確認のうえ、ご支援の参考にしてください。

現在行っているキャンペーンは、以下の通りです。

7月：アメリカ学用品支援　ブックバッグ
7月7日締切

また、ご支援いただいています子どもの誕生日の前月には、お知らせの手紙を同封しますので、必ず開封して中をご確認ください。ご自身の状況に合わせてプレゼントをお考えいただければ幸いです。ネットや電話などでお申込みいただければ翌月のお引き落としに加算することもできます。

日本事務所よりごあいさつ！

レポートの中にもお書きしましたように、ビル先生は７月のセミナーを楽しみにしています。夏休みに入ったタイミングですので、ぜひ学生の方々にもご参加いただきたいと思います。

今月は、アメリカの学用品支援のご案内を差し上げました。無理なご負担のない範囲で構いませんので、支援をご検討いただければ助かります。

また、ケニアの豪雨災害復興支援にも多くの方々が献金をお送りいただき感謝しています。現地は大変辛い状況が続いていますが、メトロの現地スタッフは、全力で救出活動と支援活動を行っています。続けてお祈りください。

徐々に季節が梅雨へと移り変わっていく時期ですが、皆様のご健康が守られ、恵みに満ちた日々となりますようお祈り申し上げます。

日本事務所代表　万代栄嗣(まんだい えいじ)

メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地　〒104-0061
東京都中央区銀座５-１４-６
橋ビルⅡ７階　ＴＦＣ内
電　話　03-6264-7370（松山事務所 089-992-9020）
ＦＡＸ　089-925-1501
メール　metrojapan@mission.or.jp
URL　https://metroworldchild.jp/

すべてのお振り込みは、下記宛にお願いいたします。
ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金　００４１６１０
郵便局：記号番号　０１６５０-３-４１６１０
口座名義はどちらも同じ
メトロ･ワールド･チャイルド･ジャパン